

a 学校教育目標	学びに向かい、心豊かで、健やかな児童の育成 ～「かしこく」「やさしく」「たくましく」～	b 経営理念 ミッション・ビジョン	【ミッション】(自校の使命) 自分を愛し、夢を語る児童の育成 【ビジョン】(自校の将来像) 「通ってよかった」「通わせてよかった」と誇りに思われる学校
----------	--	----------------------	--

評価計画				自己評価					改善方針		学校関係者評価			
c 中期経営目標	d 短期経営目標	e 目標達成のための方策	f 評価項目・指標	g 目標値	10月	2月	i 達成度	j 評価	k 結果と課題の分析	n 改善方針	l 評価			
					h 達成値	h 達成値					イ	ロ	ハ	
											m コメント			
確かな学力	確かな学力の育成(かしこく)	○学力向上に向けた計画的、効果的な取組の実施及び個への支援手立てと授業改善策の検討 ○学力調査分析事業の活用 ○家庭学習をやり切らせる指導とICT活用による家庭学習の実施	○算数科・国語科単元末テスト通過率(知識・技能)	85%	87.2%	87.2%	102%	A	・算数科・国語科の単元末テスト(知識・技能)の10月から2月までの平均点は、算数科が87.2点(102%)、国語科が87.3点(102%)であり、達成度としては102%であった。	2学期から、単元末テストの結果をもとに学力補充の計画を立てて取組を行っているため、特に課題が大きかった単元を中心に、白滝タイムでの学力補充を継続していく。また、標準学力調査の結果を全職員で分析し、各学年の課題や、学校としての課題を明確にすることで、重点的に取り組む領域を絞り、学力の底上げを図るようとする。学力補充の際に、複数体制での指導も行うようにし、0層の児童に対して個別に指導ができるようにしていく。算数科の思考・判断・表現については、学力補充の取組のみでなく、授業の中で取り組んでいる「問題文・図・式などをつなぎながら考える方法」、「図・式・グラフなどを指しながらの説明」、「反応例・質問例」の活用などにも継続的に取り組んでいく。	○			・児童の多くが教員の発問・指示を聞いて活動できていた。 ・学習規律の定着が図られているように思う。 ・児童達の学習意欲をより高めるために、教員の「ほめる」活動の充実を期待する。 ・R80の児童のファイルを見て、授業の振り返りが徐々に充実していきやすいように思う。 また、児童の書いたR80に対し、教師が丁寧に評価されているのがうれしいと思う。 ファイルを活用して「メタ認知(自分の学びを自分で理解し、調整する力)」を高める取り組みをしたらどうだろうか。 ファイルを見て振り返ることで、学び方そのものを振り返る習慣が育つことが期待できると思う。 ・学力に課題がある個の数値を評価に入れるかどうかを、今後検討されること。 ・各科目について、目標値を達成されていることは好ましいことだが、今後とも底上げ対応を願っていたい。
	思考力・表現力の向上	○対話を生み出す発問の検討 ○「図、式、表、グラフなどを指しながら説明している」、「視点に沿って振り返りを書いていく」等の視点による授業評価票を活用した授業改善 ○定期アンケート評価による成果と課題の把握、分析、改善策検討	○算数科・国語科の単元末テスト通過率(思考・判断・表現)	80%	85.2%	83.2%	103.5%	A	・算数科・国語科の単元末テスト(思考・判断・表現)の10月から2月までの平均点は、算数科が78.2点(97%)、国語科が88.3点(110%)であり、達成度としては103.5%であった。全体の結果を見ると、算数科・国語科ともに目標値の80%は達成したが、算数科の平均点が前回より4点より低くなったことから、重点的に取組を行う必要がある。	・児童の説明の仕方について、各授業者が意識的に指導を行ってきたことで、説明の仕方が身につきつつあるが、学年によって定着状況に差が見られているため、教師が手本を示したり、手本となる児童の説明の仕方を真似させたりするなど、指導を継続していく必要がある。 ・振り返りについては、質の向上を目指し、児童に書きやすいキーワードを板書の中に強調して示したり、授業のまとめを活用したり、手本となる児童のノートを提示したりすることで、思考の整理の仕方が身につきよう取り組んでいく。児童アンケートでは92%という結果が出ているが、未だに書き方が定着していない状況が見られているため、書くことに課題のある児童に対して書き方を指導し、思考の整理ができるようしていく。	○			
豊かな心	豊かな心の育成(優しく)	○生活科、総合的な学習の時間を中心とした学校運営協議会を活用した事業を推進し、地域への愛着・感謝の心を育てる。	○学校アンケート「小泉の地域の役に立つ行動がしたい」肯定的評価4の児童の割合	90%	96%	94.0%	104%	A	・アンケート「小泉の地域の役に立つ行動がしたい」の項目に94%の児童が肯定的な回答をした。前回と比較すると、-2ポイントだった。 ・2学期以降には、民生委員の方やPTAの協力のもと、全学年で「やさいも大会」をしている。前期に続き、全学年、地域の方が「本の読み聞かせ」をして下さっている。2月に、地域をコースとして持久走大会を実施している。また、各学年においては、3年生は「消防団の見学」「昔の道具の学習」「特別支援学校との交流」、6年生は「キャリア教育」「プログラミング学習」を行っている。また、地域の方々や保護者の方々が支えとなりふるさとを愛する心が育まれていると考える。	・CSを活用した取組が学年や時期によって偏らないようにしていく。そのために、来年度のカリキュラムを見直し、年間を見通してバランスよく計画する必要がある。 ・また、下半期は、「上半期で知り得た情報を発信する」などの単元に沿った活動になるよう工夫して、地域と関わり、地域に貢献していけるようにする必要がありと考える。	○			・民生委員や子ども教室などで子ども連に運ばれる者として、子ども達が地域に関心をもって居られることは、とてもうれしい。 ・地域の書として、もっとこうやってやりたいという気持ちもどよめく大きな声になってしまったり、CSで学校側が負担がかかっている感じが気になる。 ・地域で会った時にあいさつや声掛けをしてもらうことが増えたと感じる。 ・最後の子ども教室時に、「最後の子ども教室もよろしくお願ひします」とうれしい声掛けをしてもらった。感謝の気持ちをもつことができていくことに感じた。先生方のご指導や、いろいろな取り組みの成果の1つなのではないかと感じた。 ・CSが始まり、地域の方々の力を借りて、子ども達がいろいろな体験・経験をしている様子が見え、うれしく思う。 先生や家族以外の大人と関わり、たかさんのことを吸収して成長してほしい。 ・CSの取り組みとして、全校で焼き芋ができたことはよかった。 1つの学年で支援する学習が重なり、内容が重複しなかったことで、来年度は、学年や内容等の計画を見直しをしたい。
	児童の自己有用感の醸成	○学級活動や特別活動の充実 ○学習環境調査「i-check」(6月、12月)分析による「自己肯定感」「学級適応感」のA群B群の割合で評価	○自己肯定感アンケートの児童の肯定的評価の割合	90%	87.8%	88.5%	98%	B	・アンケート「①今の自分に満足していますか」の項目に82%、「②自分の良いところを知っていますか」の項目に88%、「③自分にも人の役に立つことができると感じますか」の項目に92%、「④頑張っていることはありませんか」の項目に92%の児童が肯定的な回答をした。前回と比較して①は-4ポイント、②は+1ポイント、③は+9ポイント、④は-3ポイントだった。 ・12月実施のi-checkにおいて、A群B群に属する児童は、96%いた。前回と比較して、+7.8ポイントだった。	・「ありがとうの花束」の取組や委員会活動、係活動を通して、自分の言動が相手の役に立っていると感じられたことが②③の結果の向上に繋がったと考えられる。逆に結果を他者に認められることはあっても、過程を認められてもらうことが少なかったことが①④の結果が下がったことに繋がったと考えられる。 ・2学期以降も、週に1回SSTの時間をとったり、行事等を通して、異学年交流を行ったりする時間を確保しているためと密に連携を取ったりして児童の状況を把握する時間を設けている。実態把握後の取組が迅速で組織的にできたことが、児童や保護者の安心に繋がったと考えられる。 ・来年度も、個別に状況を把握し、学校全体で情報共有し、指導・支援していったり、細やかに評価・価値付けをしていきたい。	○			
健やかな体	健やかな体の育成(たくましく)	○アンケートの結果分析による課題分析をし、取組内容の決定と実施 ○体育科における運動遊びの実施 ○休憩時間等を活用した学級遊びの取組実施	○運動やスポーツが好きな児童の割合	7月 90%	100%	96.0%	101.1%	A	・「体を動かすことは好きですか。」という質問に対する肯定的評価は96%と目標値を超えることは出来たが、10月の調査時より4ポイント低かった。 ・がんばり朝会の中で様々な運動遊びを行ったり、体育科の授業等で、楽しく体を動かしたりすることを継続することにより、体を動かすことが好きな児童の割合が高いのではないかと考えられる。 ・がんばり朝会で、鬼ごっこやピラミッドじゃんけん等の運動遊びを全校や縦割り班で行うことで、同級生だけでなく様々な学年の人と楽しく活動することができた。休憩時間も他学年と遊ぶ姿も見られるようになった。 「学校や家庭で外遊びをしていますか。」という質問に対しては、10月の調査時と変わらず、16%の児童が否定的な回答をしていた。	・今後もがんばり朝会や体育でいろいろな運動遊びを行うことを継続して行っていく。 ・「学校や家庭で外遊びをしている。」に、依然として否定的な回答をしている児童が多い課題がある。外遊びを増やすことができるように、保健体育委員の児童とたて割り班で長縄や遊びの計画をしたり、各学級で外遊びを定期的に企画する等、今後も取組を工夫する。	○			
	体をつくる	○給食を食べ切る分量の自己決定と完食しようと努力する児童の育成 ○食に対する感謝の気持ちを醸成する指導、取組実施 ○歯を大切にしようとする児童の育成	①学校アンケート「給食は自分で決めた分量を食べていますか」の肯定的評価 ②お昼の歯みがきをする児童	①95%	93%	96%	101.1%	A	・給食の量を自己決定し食べている児童は、目標値に達し96%だった。はくばく給食取組後のアンケートでは、苦手な食べ物にチャレンジ出来た児童は97.5%、完食の意識が高まった児童は98.7%と高かった。 ・町内の生産者さんへのインタビューをmeetで放送することで98.7%の児童が感謝の気持ちが高まったと答えている。 ・「お昼の歯みがきをしている」に肯定的評価をした児童は98%で前回より4.5ポイント増加した。	・今後も児童の委員会活動として、はくばく給食週間を実施し、給食の食材の栄養や効能等を紹介したり、生産者さんへのインタビュー、養護教諭による栄養指導、栄養士を招聘しての食育等を実施することを通して、完食の意識や感謝の気持ちを高めることが出来るようにする。 ・今後もお昼の歯みがき強化週間の取組やチャレンジウィーク、保健指導等を実施する事で歯みがきをする児童を増やしていく。また、お昼の歯みがきの時間を確保することが出来るよう、食べ終わりの時間を早めに設定するなど工夫をする。	○			
信頼される学校	発信する	○学校便りの定期的な発行とPTAを活用した地域への配付 ○学年便りの発行 ○すぐ〜で随時情報を発信したり、保護者と細やかな連携を図ったりする	○保護者アンケートにおける「学校は保護者の願いに応えた教育を行っていると思われませんか」の肯定的評価	90%	98%	100%	111.1%	A	・「学校は保護者の願いに応えた教育を行っていると思いませんか」のアンケートに対して肯定的評価は100%であった。 ・保護者からの要望や願いに寄り添いながら対応し、可能な範囲で実行できたことが、肯定的評価につながったのではないかと考える。 ・学校だよりを毎月発行し、保護者へ「すぐ〜」で情報発信することができた。また、地域への回覧も保護者に依頼し、学校の情報を発信することができた。	・学校だよりや学年便り等で、児童の具体的な姿を発信したり、学級懇談会でも学級の取組や児童のがんばり等を伝えたりして、保護者との連携を大切にながら日々の教育活動を進めていく。 ・保護者からの要望や願い、相談等にも寄り添い、連携を密に図りながら、信頼される学校づくりを進めていく。	○			
	信頼される学校づくり	○学校経営会議を核としたベクトルを揃えた取組実施 ○各部会(研究推進部、生徒指導部、保健体育部)における進捗管理とPDCAサイクルの活用による改善策の検討実施 ○担任者会における教職員の交流による取組の円滑な遂行 ○学校経営会議、三部会等を活用、教員の業務改善案を取り入れた業務改善の推進	○「1年のうち1月における時間外在校等時間が45時間を超える月数6月以内」の職員の割合	100%	86.3%	95.3%	95.3%	B	・時間外在校等時間が45時間を超える職員が、11月1名、12月1名、1月はいなかった。管理職以外は、45時間以内を達成することができた。 ・学校経営会議や各種委員会等で業務改善等について協議し、改善を図った。 ・重複していた「担任者会」をなくしたことにより、早期退校につながったのではないかと考える。	・経営会議や準備委員会等で、教職員の状況を互いに把握したり改善できることはないか考えたりして、業務改善を図っていく。 ・困っていることや悩んでいることを相談できる体制づくりや努めたり、校務分掌の見直しを図ったりしながら、組織力の向上にも取り組んでいく。 ・行事を計画する際に、見直しを持ち、計画的に取り組めるよう、各主任層等と連携を図っていく。	○			・保護者の方が、「学校評価を実施している理由を理解されているのが気になる」という。保護者の学校評価の意義の理解が深まることを期待している。 ・継続的に「学校評価」の意義や取り組みについて、保護者に情報発信を行い、アンケート結果の具体的な数字とともに、取り組みの成果と今後の改善の取り組みを示すことが必要である。また、アンケートの回答方法については、匿名性が担保されていないと、保護者の本心を聞くことが難しく思うので、保護者の方が「学校は話を聞いてくれる」と受け止められる学校の姿勢の充実が必要である。

【j:自己評価 評価】  
A:100≧(目標達成)  
C:60≧(もう少し)≦80  
B:80≧(ほぼ達成)≦100  
D:(できていない)≦60

【l:学校関係者評価 評価】  
イ:自己評価は適正である。ロ:自己評価は適正でない。  
ハ:分からない。